

平成31年度事業計画

社会福祉法人 翡翠会



社会福祉法人 翡翠会

法人の理念

「地域と共に生きる」

翡翠会行動指針

「3つの顧客、3つのLIFEの最大化」

3つの顧客

- ・利用者様…翡翠会のサービスを利用する方々
- ・地 域…大網白里市をはじめ山武郡市の地域住民
- ・職 員…翡翠会に勤務する職員

3つのLIFE

- ・生 命…健康管理
- ・生 活…日常生活
- ・人 生…生きがい

利用者様への基本姿勢

- ・利用者様の意向を尊重して、多様な福祉サービスが総合的に提供されるよう創意工夫すること。
- ・利用者様個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成すること。
- ・利用者様の能力に応じ、自立した生活を地域で営むことができるよう支援すること。

翡翠会職員行動規範

- ・「清潔感」と「礼儀正しさ」
- ・「スピード」は誠意のあらわれ
- ・「普通の感覚」を忘れない
- ・「エコ」～「お金」「もの」「人力」を大切に使う
- ・「能動性」～自ら気づき行動する勇氣
- ・「チームワーク」～自己任務遂行と多様性の尊重

事業計画

31年度法人目標

- ・ サービスの「連続性」による付加価値の向上
- ・ 「差別化」を徹底し、「3つの顧客」から選ばれる

○法人事務局

実施事業

- ・ 理事会の意思決定に基づき、法人全体や各事業の計画的な進行管理を行う。
- ・ 収支状況等の法人の運営上の課題について情報を内外から収集し分析する。
- ・ その結果について考えられる対応策を含め、理事長や理事会に報告。
- ・ 全施設・事業の経理・総務・人事の集約
- ・ 働き方改革、健康増進法などの法令厳守。

取り巻く環境

現在福祉業界の抱えている課題の一つである人材確保。「少子高齢化」が進む日本では高齢者の増加に伴い、福祉サービスを担う人材が常に求められている。福祉サービスの需要はあるのに、人手が足りない「超人手不足」の状況が現在よりもさらに悪化すると考えられる。「働き方改革」について、本法人でもしっかりと考え、職員が働きやすく、自分の能力を發揮できる仕組みづくりが必要となる。

また国では、現在「我が事、丸ごと」の地域共生社会実現という目標を掲げ、縦割りの制度から貧困・介護・児童虐待・障がい者支援など多分野に渡り、複雑化するニーズに対応できる地域づくりが求められている。具体的には「限られた財源・人材・資源を用いて、いかに多くの要介護者・要支援者を支援するための仕組みを作るか」というものであり、共生型サービスの創設などはその一例と言える。

山武・大網白里地域において、障がい福祉事業所と介護保険事業所を両方運営する法人は限られており、翡翠会に期待される役割は大きい。高齢障がい者や若年性認知症の患者など地域の既存の資源からこぼれ落ちる利用者様のニーズに法人全体で応えることが大切であり、時代の要請に応える社会福祉法人たることが求められる。

事業の重点項目

- ・各部門の指示・命令系統を明確し、人員の流動性を図りながらサービスの向上を図る。（正職員に求める資質・役割の明確にし、業務分析を行う。場合によっては非常勤職員の協力を仰ぐ）
- ・法人研修の充実を図る。（4月・10月の全体研修、各職員の希望に応じた種別研修は各職種の実践に即した研修の実施に努める）
- ・ホームページでの広報活動で法人の魅力を最大限発信する。
- ・今年度も大網白里市住民協働事業で行う「カフェかきつばた」や「子ども食堂」について法人全体で協力・運営する。
- ・運営戦略会議では、現場の声を拾い働きやすい職場づくり、事業所を越えての協力体制ができる様意思疎通を図る。
- ・「子ども教育手当」の創設など、職員の働きやすさを高め、一層の定着を図る。
- ・昨年度発足した「ステップ塾」をさらに活性化し、10年後の法人運営の柱となる人材を育成・教育する。
- ・サービス状況や法人の理念・法人の理解度、研修への参加、就業規則の順守等を昇給・賞与に反映し、組織のガバナンス強化に努める。

○山武みどり学園

実施事業

- ・生活介護（定員50名）
- ・施設入所支援（定員40名）
- ・短期入所（定員8名）
- ・特定相談支援事業
- ・障害児等療育支援事業

取り巻く環境

山武圏域では就労支援を含め日中活動系の事業所が増加しており、利用者様が事業所を選ぶことができるようになりつつある。しかし、重度知的障がいをお持ちの方を受け入れることのできる事業所は限られている。入所施設として重度の方であっても、受入れ可能な体制を整える必要がある。

宿泊に対するニーズは依然として多い。地域にGHが複数開所しているが、現状としてホームへの入居ではなく短期入所での一時的な宿泊を望まれている方が多いように思われる。夜間支援に携わる職員の確保が急務となっている。

事業の重点項目

- ・重度知的障がいをお持ちの方にも楽しんで取り組むことのできる活動の提

案・環境整備等を行い、どなたにもやりがい・楽しみのある暮らしを提供できるようにしていきたい。そのためにも強度行動障害支援者養成研修未受講の職員は全員受講し、支援を検討する基礎知識の充実を図り、根拠に基づいた支援ができるようにする。

・職員の定着は課題で、特に女性職員の確保が急務となっている。「働きやすい職場」となるよう、職員間の情報共有を十分にいき、職員が孤立することのないようにする。また会議等を活用し、各部署との連携を図り、チーム支援の体制を確立させる。状況により業務の見直しも図る。

○翡翠の宿一休

実施事業

- ・短期入所（6名）

取り巻く環境

地域の作業所等を利用されている方のご家族が高齢になってきていることから、将来のGH入居を考慮しながらの宿泊利用を希望されている。

宿泊希望は多いが、不定期であり1泊利用も多いことから受け入れ準備や利用者様の状況把握が難しくなることもある。

事業の重点項目

- ・安心して宿泊いただけるよう、山武みどり学園との連携を図る。
- ・作業所利用の方への日中活動の提案として、すえひろ工房やまぶきをご利用いただけるよう、送迎などの体制を整える。
- ・定期的にご利用いただける方を確保する。

○山武青い鳥工房

実施事業

- ・生活介護（定員30名）

取り巻く環境

山武圏域には通所事業所はやや不足している状況ではあるが、千葉市や茂原市では新しい事業所が増えている状況であり、利用者様がサービスを選べる環境が徐々に整ってきている。新規利用希望者の相談は数件あるも、利用までは至らない事が多い。30年度に創設された「共生型サービス」の指定を受け、自宅の障がい者だけでなく、「若年性認知症」の方など地域の多様なニーズに応えられるよう努める必要が出てきた。

放課後等デイサービスをご利用している利用者様の実習希望も多く、卒業後の利用を検討されている方からの問い合わせも見られている。

事業の重点項目

- ・利用日数を増加する方は増えているが、新規利用者の獲得には至っていない為、新規利用者を確保していく。
- ・65歳以上の利用者様の人数も増加してきており、活動内容の見直しが必要。共生型サービスの申請し、地域の高齢者など多様なニーズに応えられるようにする。
- ・放課後等デイサービスを利用されている方々が卒業後に利用できるよう、支援体制、職員配置の検討を行う。

○山武青い鳥の家

実施事業

- ・放課後等デイサービス（定員10名）

取り巻く環境

山武圏域での放課後デイの事業所の増加は著しいものがあり、利用する事業所を選べる環境は整いつつあり、利用児の確保の競争も激しくなっている。

袖ヶ浦特支に在学または、入学予定の方々の見学・問い合わせは多いが、医療的ケア児の分野に入る児童が多く利用開始までには至っていない状況がある。

事業の重点項目

- ・医療的ケア児に限らず、他の障害をお持ちの方にも利用できるようにする。広報については「子ども食堂」も活用し、新規の利用児の確保に努める。
- ・療育活動メニューの充実。
- ・学校等関係機関との連携の強化。

○カサ・ロサーダ

実施事業

- ・共同生活援助（定員6名）

取り巻く環境

6名の方が入居されており、平均年齢は64歳と高齢化が問題となっている。お手伝いの内容を個別に設定したり、休日に散歩等に行くなど体を動かす機会を設けている。また4名の方が定期通院をしており、医療機関と本会看護師と

の連携も益々重要となってくる。

事業の重点項目

- ・地域との関わりが増えるよう、地域イベントへの参加をしていく。
- ・日用品の購入等は利用者様と一緒にいき、利用者様の好みの物をご自身で選んで頂けるようにする。
- ・日中活動先と連携し、体調不良時や怪我に対しての受診を迅速に行う。

○すえひろ工房やまぶき

実施事業

- ・生活介護（定員20名）

取り巻く環境

山武市内にある生活介護事業所は、平成30年4月以前は入所施設併設やGHの受け皿のような形がメインになっていた。そのためか、開所1年現在、利用者様の大半は山武市内の在宅の方となっている。今後ご利用希望になるべく応えられるよう努め、地域に根ざした施設を目指していく。

事業の重点項目

- ・開所1年を経過したが、日々の利用者様の人数が10名弱ということになかなか伸びていない。法人内の他事業所からの受け入れを積極的に行ったり、利用者様の意向を確認したうえで、現在の（火）～（土）の営業日に加えて、月曜日の稼働についても検討していく。
- ・メインの活動として内職作業を実施しているが、裏テーマである『やる気・元気・やまぶき』も追求する。余暇活動も充実させていく事で、色々な方に利用の選択肢として考えてもらえるようにしていく。
- ・他法人の相談支援事業所からも「将来的に短期入所の利用に結び付けていきたい」との声があがっている。今後も「山武みどり学園」「翡翠の宿一休」「かきつばた」といった本法人の短期入所との連携を図り、「利用しやすい」環境を整えていきたい。
- ・上記のような宿泊ニーズとの併用が増加すれば、山武市周辺にグループホームの開設も検討する。

○かきつばた

実施事業

- ・地域密着型高齢者小規模多機能型居宅介護事業所

自分の財産を守る、生活を支えてくれる、成年後見人を依頼する方も出てきている。職員が社会制度の知識を得る。また、緊急時・看取りなどについて、本人、ご家族と話し合い、安心して生活できる支援が必要とされている。

また昨年度退職者が数名あったことから、業務改善を行い人員の安定を図る必要がある。

事業の重点項目

- ・かきつばた、居宅かきつばたと連携をとり、入居対応に結び付けていく。
 - ・入居者様の高齢化に伴い、日頃の体調観察、緊急時の対応、入退院後のケアについて本人・家族・医療関係者と話し合い、職員が支援について共有を図っていく。
 - ・創設5年目、業務内容の見直しを進めていくと共に、業務マニュアル、個別ケアマニュアルを作成。業務遂行の徹底と効率を高めていく。
- 2つのユニットの職員が互いに業務が行えるよう、協力体制の整備を行う。
- ・職員の定着、育成を図るために、業務マニュアルに沿って指導すると共に、自ら考え、発言、行動が出来る職場環境作りを行う。
 - ・内外の研修へ積極的に参加する。受講後、職員と共有し、接遇力・介護力を高めていく。
 - ・運営推進会議の開催や地域行事・活動に参加し、交流を深めていく。
 - ・地域のニーズに corres 応するため、短期入所生活介護の指定も検討する。

○居宅介護支援事業所かきつばた

実施事業

- ・居宅介護支援
- ・特定相談支援事業
- ・特定障害児相談支援事業

取り巻く環境

要支援 19名 要介護 30名 障害 10名

担当利用者様は増えているが障がい者支援を除くと大網白里市在住の利用者様が少ない現状がある。本法人の障害福祉サービス利用の65歳に達した利用者様も自己負担が発生するなどの問題があり介護保険への移行は行えていない状況がある。

ガン末期の利用者様の担当受け入れ、利用者様の入退院時の医療連携はスムーズに行えている

また在宅生活が困難となった利用者様に対しては、本法人の小規模多機能や認知症グループホームへの連携を行っている

特定相談支援では市の障害福祉課から担当依頼を受けるなど事業の周知が着実に進んでいると考えられる。

事業の重点項目

昨年度に続き、介護保険サービス・共生型サービス・障がい福祉サービスと多種多様なサービスを展開する本法人の特性を周知して行く為に、カフェかきつばたや出前講座、子ども食堂の運営を活用して利用者様の獲得に努める。

サービスや施設を利用者様に紹介する立場の視点から、本法人が運営する2つの事業所を利用者様本人・ご家族・他の居宅介護支援事業者に選んで頂けるよう、かきつばた・ほほえみの里かきつばたとの連携で在宅困難となった利用者様の望む生活の実現をしつつ、より良いサービスが提供できるよう側面から協力する。

特定相談支援サービスの質の向上、障がい・介護保険サービスとの併用や移行を柔軟に行う事を模索する。

研修、勉強会で積極的に知識・資源を習得しケアマネジメントの質の向上に努める。